

ボーダーレスの時代のスペイン語

橘川 慶二

私は、特にスペインの現代小説に興味を持って読んでいるが、最近10年ほどのスペイン語の変化には目を見はるものがある。日本語でも「アッシー君」のような世情を反映した流行語、新造語が氾濫しているし、ごく限られた数の単語だけによる、まるで文とはいい難い会話を耳にするのも日常茶飯のことである。若者層の語いの貧困化、日本語の乱れなど、昔からいい古されたことであって、今さら改めて驚くには当たらない。われわれオジ様族にとって得体の知れない人種の言葉も、分かっしまえば、結構、いい得て妙と感心もするし、第一、貧しいボキャブラリーで彼ら、彼女らはともあれコミュニケーションが可能なのだ。TVのクイズ「年の差なんて」で出題されるヤング問題も、一種のアルゴットなのであろう。

スペイン語の変化、とりわけ書き言葉におけるそれも、社会の変化と無縁ではなさそうである。フェリペ・ゴンサレス率いる PSOE による長期政権、EC の市場統合、経済発展による国民の生活水準の向上。物価高騰によって93年以降のスペインは不安定要因をいくつも抱えているが、スペインは今がいちばん面白い時ではなからうか。もちろん東側の崩壊という世界情勢も大きく影響している。何しろ悪名高いテロリスト集団 ETA でさえ、外国人部隊に依存しているご時世である。いろいろ矛盾をはらんだ、一見、華やかな現代社会。こうした状況の中での社会通念の変化は、小説の中に色濃く反映される。事実上、検閲がなくなったとはいえ、かつては水面下にあった麻薬、ホモセクシャル、最近ではエイズ問題が小説の題材として、あるいは日常生活の1ファクターとしてひとり歩きをしだしている。それにつれて社会のマイノリティーであった彼らのアルゴットが、小説

の中に頻繁に登場してくる。

こうした傾向の萌芽は、70年代にかけてのセラの一連の小説中にすでにあった。それが現代の小説ではいっそう増幅され、まるで卑語、俗語がすっかり市民権を獲得したかのようである。トマス・ガルシアの *La otra orilla de la droge* (1984) では、全篇、麻薬用語で占められ、作者自ら巻末に付した用語解説がなければ、門外漢にはさっぱりわけが分からないといった小説もある。性に関するアルゴットは昔からたくさんあった。しかしれっきとした文学作品にこれほど使われるようになったことは、かつてなかった。

文章語に口語が多用されるようになったのは、語法にも及んでいる。自動詞の他動詞的用法、あるいは卑近なサンプルでは *suspender* のように、対語の *aprobar* に合わせた用法が定着しつつあるような例、*de-que-ismo* とでもいうべき特定の前置詞の多用などなど。文体についても然りである。ピリオドなしの長文化は、やはりセラの *San Camilo* を嚆矢とすると思われるが、現代では自由間接話法はおろか、語りの部分に生の直接話法が、句読点もなく縦横に織りこまれ渾然一体をなしている。推敲を重ねたというより、一見、無造作と思われる文体が、読者をぐいぐいと語りに魅きつけていく。アルフレド・コンデの *Los otros días* (1991) では、会話文、語り文の入り混じった文に、作者は意図的にコンマを多用し、わざと脈絡を切っている。こうした文章を読むには、会話をベースとしたスペイン語文のリズムを身につける必要がある。現代はボーダーレスの時代といわれる。スペイン語の表現のいろいろな面でそれを実感する昨今である。

今、スペイン語が面白い。

言語学の研究について

井谷 玲子

全ての科学がそうであるよう、言語研究方法には二つの代表的アプローチがある。一つは帰納的方法（inductionist approach）と呼ばれるもので、アマゾンの奥地に至るまで世界の言語データを集め、そこから一般的規則を引き出すものである。もう一つは演繹的方法（deductionist approach）と呼ばれるもので、代表的な言語データを基に、ある仮説をたて、その仮説を反例となる言語データに直面するまで保ち、反例であると判明した時に、その仮説を洗煉して行くという手順をとるものである。さて、前者の方法を採用する場合、物理的に不可能な壁にぶつかる。それは世界中の全ての言語データを収集するのは、時の流れを止めて、言語の変化をフリーズしない限り、不可能であるからである。又、如何なる言語の話者であれ、無限に新しい文を作り得るという事実も、全ての言語データを網羅することが不可能であることを明らかに示している。

チョムスキーは言語学を科学（science）の地位に高めた言語学者であるが、研究方法としては後者の演繹的方法を採用している。彼の研究方法は、代表的な文法的に正しい文からある仮説をたて、その仮説を言語データに照らしあわせることである。

帰納的方法よりも演繹的方法が科学としての言語学のアプローチとして妥当であるという立場は、自然社会科学に関する哲学者であるカール・ポPPERの科学的仮説に対する見解によっても支持される。彼は、無限のデータから一般的法則、原則を引き出すということにおいて、その真実性が実証されることは不可能であるが、反証（falsify）できるとする。つまり、いくら数多くの白い白鳥を観察しても“All swans are white”という仮説を実証することは出来ないが、一匹でも黒い白鳥（実際存在するのだが）観察すれば、この仮説は反証される。即ち、ある仮説が科学的であるかないかの区別は反証できるかできないか（falsifiable or not）に依存するとする。

チョムスキーは、1957年に“Syntactic structure”（統語構造）を出版し、変形生成文法理論を唱えたが、それ以来、人間の言語能力を解明しようとするチョムスキーの文法理論は数々の変遷を辿ってきた。それはまさに、初期の彼の理論が現実には観察される言語を相容れない非文法的な文を生成した為、捨てられたり、修正される必要があったからである。つまり、チョムスキーの文法理論が反証可能であることを示しており、それが科学理論であることの言い換えとなっているのである。

チョムスキーの文法理論の修正を簡単に見ると、例えば1957年の“Syntactic structure”では‘意味’が排除されていたが、1965年に出版された“*Aspects of the Theory of Syntax*”（統語理論の諸相）の中の標準理論では‘意味’部門が導入され文の意味解釈を記述している。そして、Neg 挿入（否定文を作る際の変形規則）、命令文削除（命令文を作る際の主語‘You’を削除する変形規則）などが1981年に提唱された“*Government and Binding Theory*”（統率束縛理論/GB 理論）では、‘Move α ’というメタ的変形規則で包括されている。

先に述べた哲学者ポPPERの見解は、如何なる科学理論も究極的に実証されることはなく、たとえ、多くのテストで生き残れるよう修正され、新理論に変身していったとしても「さあ、これが真実を語るものだ」と言えるものは存在しないことを意味する。このことを念頭に置くと、チョムスキーの生成理論が大きく変遷してきたことに対しての妥当性、必要性に気がつくと思う。

言語学に携はる一人として、チョムスキー理論の変化にとまどいを感じることは否定できないが、‘真実’という概念が科学理論とを発展させる上で重要な動機となっている事実を受け入れる限り、同じ理論、仮説に長く固執し修正しない方が不健全であるように思われる。

参考文献：

A Dictionary of philosophy, Pan Reference

神に選ばれたことば (3) ——時間の観念——

武内 道子

アラビア語は右から左へ書かれることはよく知られている。書かれたものを見てアルファベットを識別しようとするのは、英語をはじめとする西欧言語に慣れ親しんでいる者には、不可能に近い。文字の切れ目がないからである。アルファベットは28字あり、それぞれ isolated form はある。しかし語（又は句）として書かれるとき、語頭、語中、語尾によって形が異なる。語頭の形は isolated form に比較的近いが、語中と語尾はそれから推量することはむづかしい。

これだけをもってしても、せめてアルファベットだけでも覚えて辞書を引き引き読めるというくらいにしたいという望みは、萎えてしまう。おまけに、アルファベットは子音のみで辞書の単語は子音の流れるような連続で書かれてあって、母音を足して読まなければならない。母音の表記は(されるときは)、同違ってついたペンの汚点か紙のキズかと思うほどのしるしが、子音の上につく（'が上に付けば/a/, 下に付けば/i/, 'が上に付いて/u/, 母音の欠如は小さい丸。である）。

外国語イコール西欧言語と思っているわれわれに馴染めないのは動詞の形である。ほとんどの動詞は三子音の連続で書かれる。たとえば、k-t-b の三子音によって与えられる意味は「書くこと」である。この最も単純な形は「三人称・男性・完了形」である。/kataba/と読まれて、'he wrote' 又は 'he has written' の意味となる。辞書にはこの「原形」が与えられ、一つの原形の下に、根を同じくするすべての派生語が並ぶ。k-t-b の項目の下に、kitaabun「本」、maktabun「書くところ＝事務所」、maktabatun「机」、kaatibun「作家」が出ていたのである。名詞や形容詞も動詞の原形から派生した形であるから、辞書を引くにはまず原形が何であるかを知らなければならないということになる。

さらに、セミ語族特有の現象であるが、アラビ

ア語の動詞の活用は完了形と未完了形の二種類に大別される。基本的には時制と直接関係なく、動作の完了・未完了を表わすものである。

原形（完了形）の/kataba/が「彼は（過去に）書いた」とも「彼は（丁度）書いてしまったところだ」とも理解される（日本語で過去を表す「た」が「電車がきた」に見られるように完了の意味を有していることと酷似している）。また売り買いの場では、まだ行為が完了していないにも拘らず、過去形が用いられるのは面白い。「I bought」とか「I sold」の形が使われるが、これは「買うことに同意した」「売ることに同意した」という意味あいであろう。

未完了形の用法は、現在の習慣と未来への言及である。動作の進行も未完了形そのままの be 動詞に相当するものは出ない。Ahmad speaks. Ahmad is speaking. Ahmad will speak. は同一の形が使われるわけである。また未来の願望を表すのに完了形を使うことがしばしばある。そうあって欲しいという願いを、既に実現した事実として述べるのである。

複文における動詞の形は、主節の動詞と従節の動詞の表す行為のどちらが早いかによる。すなわち、目的節では目的の達成が主節の行為のあとになるから、未完了形が使われ、一方 when 節ではその逆で完了形が使われる。つまり完了形は「相対的過去」を、未完了形は「相対的非過去」を表す（日本語の以前形ともいうべき「た」と共有する——「あした早起したら町まで出かけよう」）。

アラブの人々とつきあっていると、時間のことを気にしないことに苛立ちを覚える。「明日10時に来て下さい」という約束は余り意味がかく、せいぜい「明朝伺います（インシャアッラー）」というところで、午後2時ごろまでならいつでもよく、明日になって、又明日というものも一向に差しつかえない。いくつでどうするといった観念も、

年令さえもはっきりしない。過去は現在から切り離されたもの、過去から現在さらに未来と順序よく続くものといった感覚は持ちあわせない。時間に縛られて生活しているわれわれからみると、何ともつき合い難いところがある。

神は全能をもって、時とは関係なくこの世を造

り、したがって神が人間の運命を決め、われわれが神の意志に帰依するのは、時間とは関係ないのである。アラビア語の動詞は、時の観念から離れてすでに完了した行為を表しているのではないか——預言者マホメット以来の砂漠の勇者たちの信念であってきたのである。

バンコックを訪ずれて

上條 雅子

常日頃アジアの国に是非とも行って見たいと思っていた矢先に、バンコックで開催される教育と文化に関する会議に招待された。この機会に神奈川大学と国際交流協会を結んでいるタマサット大学と同大学日本研究センターを訪問し、更にバンコックの中等学校の英語クラスを参観することにした。

教育と文化に関する会議

教育と文化に関する会議はベルギーのルウベン・カトリック大学比較教育研究センター主催、タイ・ユネスコ本部とタイ国立教育委員会の協賛によって、昨年2月21日から23日の3日間、バンコックのスコタイ・タマラシラット・オープン・ユニバーシティで開催された。参加者は10人の研究発表者（日本、中国、香港、韓国、マレーシア、フィリピン、台湾、タイ、シンガポール、ベルギー）、会議主催代表者（ベルギー）、3人の基調講演者（タイ、イギリス、オーストラリア）、10人の教育行政関係来賓者（タイ、台湾、中国、フィリピン）、合計23名で、これまで参加した国際会議として極めて小人数の学会であった。

研究発表者は「工業化がアジア諸国の文化と教育に与えた影響に関する比較研究：工業的思考、文化の価値観、中等学校におけるコア・カリキュラム」の課題についての共同研究を、出版を前提としてこれまで3年間続行してきた。共同研究者それぞれが同じ分析モデルを用いてこの研究課題の各国のケース・スタデーを行ったものを比較分析し、研究結果は報告書として纏められた。これ

を発表者が再検討の上改稿し、「工業化アジアにおける教育と文化：東洋と西洋における工業的思考の影響」と題して会議資料のために再編集された。

この研究は工業化・近代化政策に関与する教育行政関係者にとって深刻な課題である。ゆえに、会議の目的はこの研究について専門家、教育行政関係者から批評、助言を得ることによってより広い視点で研究を完成させることにあった。あらゆる国々は好むと好まざるとに拘らず、工業化を余儀なくされてきた。工業化の進展によってアジア諸国では西洋化現象も進展し、今や自国固有の文化、国民のアイデンティティが不明瞭になりつつある。

工業化の進展に国民の工業思考は伴っているのだろうか。例えば、日常生活や職場で人々は理論的に考え、機能的に行動するようになっているのであろうか。教育はカリキュラムによって工業化・工業的思考と自国固有の文化・価値観の維持及び社会・経済、文化、個性の発展に、どのように関与してきたのであろうか。アジア諸国はポスト／工業化・近代化を望んでいるのであろうか。とすれば、そのモデルは西洋モデルであろうか。研究者はこれらの課題を明確にして、その望ましい方向として教育政策を提案することを要求された。

会議はまず、研究課題に関するレポートと基調講演「東西近代社会における文化の価値観」、「東西諸国における工業化と工業思考」、「近代性と伝統性の間における実質的緊張：アジア文化の遺産

と科学の発展」に関して、白熱した討論が行なわれた。中でも工業的思考に焦点を当てた研究分析モデルが複雑であること、およびアジア諸国で工業化／近代化の度合いが異なるために、研究者がモデルに忠実に従うことの難しさが指摘された。研究発表に対する質問、批判は現実性を帯びているだけに厳しかった。

アジアの参加者が多い会議で日本のケース・スタディを発表することに対して、先進工業国であるだけに複雑な心境であった。「国民は伝統を維持し可能な限り自然と共に生活することを望み、これ以上の工業化は望まないだろう。」タイ国立教育委員会会長の言葉は、ゆえに、タイの国民の本音であろうと思うと、心が痛んだ。会議はアカデミック・レベルで続行し、会議終了と同時にこの複雑な心境から開放された。

日本語教育事情—タマサット大学・日本研究センター

会議終了後最初に訪れたタマサット大学東アジア研究所日本研究センターは、スコタイ・タマラシラット・オープン・ユニバーシティの北に向かって車で約30分、郊外の広大な敷地の一角に位置している。タマサット大学、日本研究センター、ラクーン中等学校訪問の全日程をアレンジした上、案内役を務めてくれたのは、タマサット大学研究対外関係事務局副局長助手アナであった。白い日本研究センタービルの玄関前で、東アジア研究所長、日本語教師、コミュニケーション・データプロセスの研究者に迎えられた。冷房完備の応接室で暖かいコーヒーをいただきながら当センターの日本語教育事情を聞いた。

タイ人にとって英語ができることは珍しいことではなくなっている。日本語ができることはそれを使うと使わないとに拘らず、いかなる仕事に従事しようとますます有利となっている。事実上、仕事で日本語を使用する機会は増加している現状にある。日本政府の援助によって1986年に建設された日本研究センターで日本語クラスが開講されて以来、学生数は毎年増加している。全日制コースの学生の多くは寮生である。学生寮とゲスト宿泊室は、緑の草木の庭に面した明るく清潔な洋室であった。定時制コースには当センター近くの日

本企業の従業員が就業終了後多数来るそうである。

タマサット大学における日本語学科の学生数も毎年増加している。英語学科に交換留学生制度はないが、日本語学科では4年間の早稲田と慶応大学留学制度がある。早稲田、慶応、南山各大学から1年に5～6人の学生がタマサット大学に留学する。慶応大学に留学して修士号を修得したタマサット大学研究対外関係事務局の若い女性は、日本語がすこぶる流暢であった。

日本研究センターの日本語教師はタイ人専任教師一人、日本人客員教授二人と他は非常勤である。タマサット大学にはタイ人9人と日本財団から派遣された日本人2人の専任教師、日本人9人の非常勤講師がいる。日本語教師不足の問題はいずれも同じようである。

英語教育事情—タマサット大学

午前9時、オープン・ユニバーシティ・レジデンスの前から迎えの車でタマサット大学に向かった。バンコックの中心を流れるチャオファラヤ河に面したタマサット大学の構内には、太陽の陽射しを避けるかのように高くそびえる南洋樹の間を大学生が三々五々散在していた。タイの伝統的な室内装飾が施された応接室で、外国語研究所副所長、英語学科主任、英語学科コミュニケーション担当教授、日本語学科主任とアナとの大学英語教育との日本語教育について2時間の会話は弾み、チャオファラヤ河を見下ろす三方ガラス張りの大学レストランでの会食でも延々と続いた。

大学の学期は1期は6月から9月と2期は11月から2月であるが、3月から6週間の夏季コースは自由履修期間となっている。英語学科専任教師はタイ人32人、全員女性と聞くと日本人は驚くであろうが、理由を知るとなるほどと合点もいく。大学教員の報酬が低いために、高等教育を受けた男性は高い報酬を求めて企業関係に流れていく傾向にある。高等教育を受けた女性の中でも、裕福な家庭で教育に熱心な女性が大学教師として適任とのことである。ちなみに、会談に参加した大学教師は全員この条件に該当し、英語圏に留学した英語に堪能な博士であった。タイ人教師の他にアメリカ、イギリス、カナダ、オーストラリアから

の外国人教師が10人いるが、報酬が低いために辞職する人が多くなり、英語学科として外国人教師の確保が深刻化している。

大学生は中流家庭以上の子女で中等学校卒業者の10～15%である。大学入試試験は英語、数学、タイ語、社会、歴史の科目を対象とした国家共通試験で、競争率は約7倍である。試験に失敗した学生はオープン・ユニバーシティで学ぶ人が多いという。英語学科のカリキュラムは文法、読解、作文、会話、英語技術としてのコミュニケーションの総合科目で、学生に人気があるのはコミュニ

ケーションだそうである。英文学、言語学、英米文化は英語学科に含まれてはいない。英語／日本語を学ぶ学生の動機はこれが就職に有利であり、特に日本を始め外国商社関係への就職が容易となるからだそうだ。

バンコックを訪れた時期は二月であるが、真夏の太陽の下、日本研究センターの寮から色鮮かなタイの草花に沿った石だたみの小路を辿ると、日本庭園を臨む日本の茶室があった。日本語を媒介としたタイの風土と日本文化は、異文化の融合として印象的であった。

言語研究センター1991年度活動報告

(1) 「神奈川大学言語研究」の発行

No. 14 平成4年3月

(2) 「NEWS LETTER」の発行

No. 9 平成3年7月

No. 10 平成3年12月

(3) 講演会

イ と き 平成3年7月5日(金)

テーマ 「実践的言語教授法」

講 師 横山信子氏

(国際教育センター学校長)

ロ と き 平成3年10月18日(金)

テーマ 「ケチュア語とペルー・インディオの今」

講 師 Luis Enrique Rios Alcantra 氏

(ペルー国立芸術大学音楽学担当)

ハ と き 平成4年3月2日(月)

テーマ 「パソコンを利用した中国語の教育と研究」

講 師 松村文芳氏

(神戸商科大学教授)

(4) 英語教育研究大会(第2回)

と き 平成3年11月30日(土)

〔特別講演〕

テーマ 「新しい学習指導要領とこれからの英語教育」

講 師 諏訪部真氏

(静岡大学教授)

〔基調講演〕

テーマ 「コミュニケーション能力を高める指導法」

講 師 石黒敏明助教授

〔ワークショップ〕

①リスニングの指導法 寺内正典氏

②リーディングの指導法 大内義徳氏

③ニューメディアの活用法 保崎則雄助教授

④AETとの授業のあり方 江原美明氏

⑤スピーキングの指導法 水野晴光助教授

(5) 連続公開講演会(第2回)

イ と き 平成3年12月10日(火)・11日(水)・13日(金)

テーマ 「What is Pragmatics?」

「Language and Cognition—a Modular View」

講 師 Robyn. Carston 氏
(ロンドン大学講師ユニバーシティ
カレッジ)
ロ と き 平成3年12月12日(木)・13日(金)
テーマ 「Cross-cultural Issues in U. S.
-Japan Communication」
「Difference in discourse between
Japanese and English」
講 師 Erich A. Berendt 氏
(千葉大学講師)

(6) 公開講座－神奈川大学語学教養講座(第4回)
期 間 平成4年2月24日(月)～3月6日(金)

A. 英語講座A・B(楽しい英語の学び方)

講 師	伊藤克敏教授	石黒敏明助教授
	奥田宏子教授	上條雅子助教授
	橋本 侃教授	保崎則雄助教授
	疋田三良教授	水野光晴助教授
	松山正男教授	井谷玲子専任講師

B. 中国語講座(中国語と中国文化)

講 師	尾上兼英教授	吉川良和助教授
	小島晋治教授	王 軍非常勤講師
	那須 清教授	

C. ドイツ語講座(ドイツ語会話とドイツの詩)

講 師 高橋喜郎非常勤講師

D. フランス語講座(フランス語学・教養)

講 師 倉田 清教授 佐藤夏生教授

E. スペイン語講座(やさしいスペイン語)

講 師 大林文彦教授 太田強正教授
ビクトル・カルデロン非常勤講師

F. ロシア語講座(すぐ役立つロシア語)

講 師 中本信幸教授
岡野エレナ非常勤講師

G. 朝鮮語講座(はじめて学ぶ朝鮮語)

講 師 季 守非常勤講師

(7) 共同研究会

I と き 平成3年5月29日(水)

テーマ 「語用論の最近の動向について
－関連性理論を中心に－」

報 告 井谷玲子専任講師

II と き 平成3年6月26日(水)

テーマ 「インターアクティブビデオ研究に
ついて」

報 告 保崎則雄助教授

III と き 平成3年10月23日(水)

テーマ 「コロンブス『第1回航海日誌』の
形容詞(形容表現)について」

報 告 青木康征教授

IV と き 平成3年11月27日(水)

テーマ 「大学教育の方法と課題 －教育工
学的視点より－」

報 告 小池栄一教授

☆ 予 告 ☆

11月に第2回海外講演会を開催いた
します。

講演者には、イギリス・ヨーク大学教
授 Alan C. Charity氏を予定しており
ます。

★新着案内★

－ 視聴覚資料 －

録音資料

中国語シンフォニー
中国語文法読本
中国歌集－日中学院30周年記念歌集－
日中青年愛唱歌－日中学院35周年記念歌集－
茅ヶ崎方式季刊時事英語教本
ヒーローとヒロイン
ジャパントイムズ社説集1990年版
30日完成英検2級一次試験対策
20日完成英検2級二次試験対策
Missing Parson
やさしい初歩のインドネシア語
10分間英語の名曲
10分間思い出の名曲

(継続)録音資料

Active English
English Express
The English Journal
FEN ガイド
時事英語研究
日本語ジャーナル

映像資料

エレンディラ
12 Angry Men
イギリス文学史－17世紀の文学－
紅高粱
黒砲事件
芙蓉鎮
モスクワニュースビデオ版
エル・ドラド
最後の誘惑
ベストロック

(継続)映像資料

España al Dia

－ 図 書 －

VOCABULARIO DE LA LENGUA
GENERAL DE TODO EL PERU
LLAMADA LENGUA QQUICHUA
O DEL INCA.
ESTUDIOS QUECHUA : PLANIFI-
CACION, HISTORIA Y GRAMA-
TICA.
DICCIONARIO GUARANI DE USOS.
euskara-espainiera, espainiera - eus-
kara, vasco-español, español-vasco.
INVITATION AU JAPONAIS.
ЭНЦИКЛОПЕДИЧЕСКИЙ СЛО-
ВАРЬ ЮНОГО ЗРИТЕЛЯ.
ЯПОНСКО-РУССКИЙ И РУСС-
КО-ЯПОНСКИЙ АВИАЦИОН-
НО-КОСМИЧЕСКИЙ.
АКТУАЛЬНЫЕ ПРОБЛЕМЫ Т-
ЕРМИНОЛОГИИ ПО ИНФОР-
МАТИКЕ И ДОКУМЕНТАЦИ-
И.
РУССКИЙ ГЛАГОЛ И ЕГО ПР-
ИЧАСТНЫЕ ФОРМЫ.
КРАТКИЙ ОПЕРНЫЙ СЛОВАР-
Ь.
САМОУЧИТЕЛЬ ЯЗЫКА ИДИ-
Ш.
КНИГА ОБ ЗСПЕРАНТО.
ТОЛКОВЫЙ СЛОВАРЬ ПО В

ЫЧИСЛИТЕЛЬНЫМ.
СЛОВАРЬ ПОНЯТИЙ И ТЕРМ-
ИНВ СОВРЕМЕННОЙ ФИТО-
ЦЕНОЛОГИЙ.
ЧТО ЕСТЬ ЧТО В МИРОВОЙ
ПОЛИТИКЕ.
РУССКО-КАЗАХСКИЙ ФРАЗЕ-
ОЛОГИЧЕСКИЙ СЛОВАРЬ.
СЛОВАРЬ ПО КИБЕРНЕТИКЕ.
ՕԴՏԱԿԱՐ ԲՈՒՑՈՒՐԻ ՀԱՅԵՐԵՆ
ՌՈՒԾԵՐԵՆ ԼՍՏԻՆԵՐԵՆ ԲԱՌԱՐԱՆ
(Армяно-Русско-Латинский
Словарь Полезных Расте-
нии)
РУССКИЕ ПОСЛОВИЦЫ, ПОГ-
ОВОРКИ И КРЫЛАТЫЕ ВЫР-
АЖЕНИЯ.
コンピュータロール No 31
やさしいメディア技術発達史読本
教師のためのコンピュータ入門
ワープロでアタック・パソコン通信
SYNTAX AND SEMANTICS Vol. 23
SYNTAX AND SEMANTICS Vol. 24
SELECTED WRITINGS I
SELECTED WRITINGS IV
SELECTED WRITINGS VIII

☆お知らせ☆

言語研究センターでは、学術研究調査に関わる国内旅
費の募集をしております。
'92年度 第1回締め切りが、7月3日となっております。
ご利用される所員の方は、お早目にお申し込みください。
(旅費計算は、規則規程集の旅費規程に準じます)
なお、研究調査終了後の報告書は、次号ニューズレター
に掲載いたします。